

福 議 委 号
平成 2 9 年 1 2 月 日

福島町議会議長 溝 部 幸 基 様

総務教育常任委員会
委員長 川 村 明 雄

所管事務調査報告書の提出について

本委員会は、福島町議会定例会 9 月会議（平成 2 9 年 9 月 1 5 日）において決定した、休会中の所管事務調査を終えたので、会議条例第 1 4 7 条の規定により、下記のとおり報告する。

記

調査事件	9 福島町郷土資料館（仮称）の設置について （その他所管に関する事項について）
調査期間	平成 2 9 年 1 1 月 2 8 日（1 日間）
出席委員	委員長 川 村 明 雄 副委員長 木 村 隆 委員 滝 川 明 子 委員 佐 藤 孝 男 委員 平 野 隆 雄 委員 溝 部 幸 基
欠席委員	な し
委員外議員	な し
出席説明員	副 町 長 高 木 壽 教 育 長 前 田 勝 広 総 務 課 長 工 藤 泰 教 育 委 員 会 事 務 局 長 鎌 田 一 志 教 育 委 員 会 事 務 局 次 長 西 田 真 弓 生 涯 学 習 係 長 阿 部 孝 憲
議会事務局 職員	事務局長 阿 部 憲 一 次 長 鍋 谷 浩 行 主 査 谷 藤 悟

[委員会意見]

調査事件 9 福島町郷土資料館（仮称）の設置について （その他所管に関する事項について）

（平成 29 年 11 月 8 日調査）

本調査は、現在、教育委員会が「旧白符小学校の有効利用を進める会」に管理委任をしている旧白符小学校施設（チロップ館）について、町の歴史・文化資料の展示を通して文化を育て学びあうまちづくりに寄与することを目的とし、広く一般の利用に供する「郷土資料館（仮称）」として位置づけ、管理運営の方向性が示されたため、その内容を調査したものであり、調査結果を以下のとおり報告する。

【論点とした調査項目及び意見】

1. 福島町郷土資料館（仮称）の設置について

今回、教育委員会が示した郷土資料館の構想は進めるべきと考えるが、町の公共施設維持管理の考え方、現施設の老朽化等の状態や、学芸員・派遣主事が新たに採用されているが、施設への専従、現行各種主催事業への対応等が難しい状況での教育委員会の人的体制等、不安要素、検討すべき課題も多いことから、現施設を「郷土資料館」に位置づけ整備、管理運営することは、時期尚早であり、以下の点について再度検討されたい。

（1）旧白符小学校施設の利活用について

現在、収蔵している資料の整理を進めながら当面は現行のチロップ館として使用していくことがベターではないかと思慮する。

資料には今年度から郷土資料館として管理するための要綱・予算等が示されているが、再度慎重に検討されたい。

（2）将来の郷土資料館（仮称）整備の方向性について

資料では、現行施設の老朽化が激しく改修困難であり、最低限の維持修繕をしながら数年間、管理運営し、町長との協議において、白符ふれあいセンターの建替えに合わせ郷土資料館を合築整備するとしている。郷土資料館の新設は、初めての提示であり、生活館の改修、解体等の整理についても議会においては了承したのではなく、委員会の意見としても慎重に検討するよう指摘している。このことから早急に郷土資料館を整備するのではなく、当町の人口減少等や社会情勢を考察し第5次総合計画後期実施計画に向けて各関係団体と協議を重ねながら慎重に検討する必要があると思慮する。